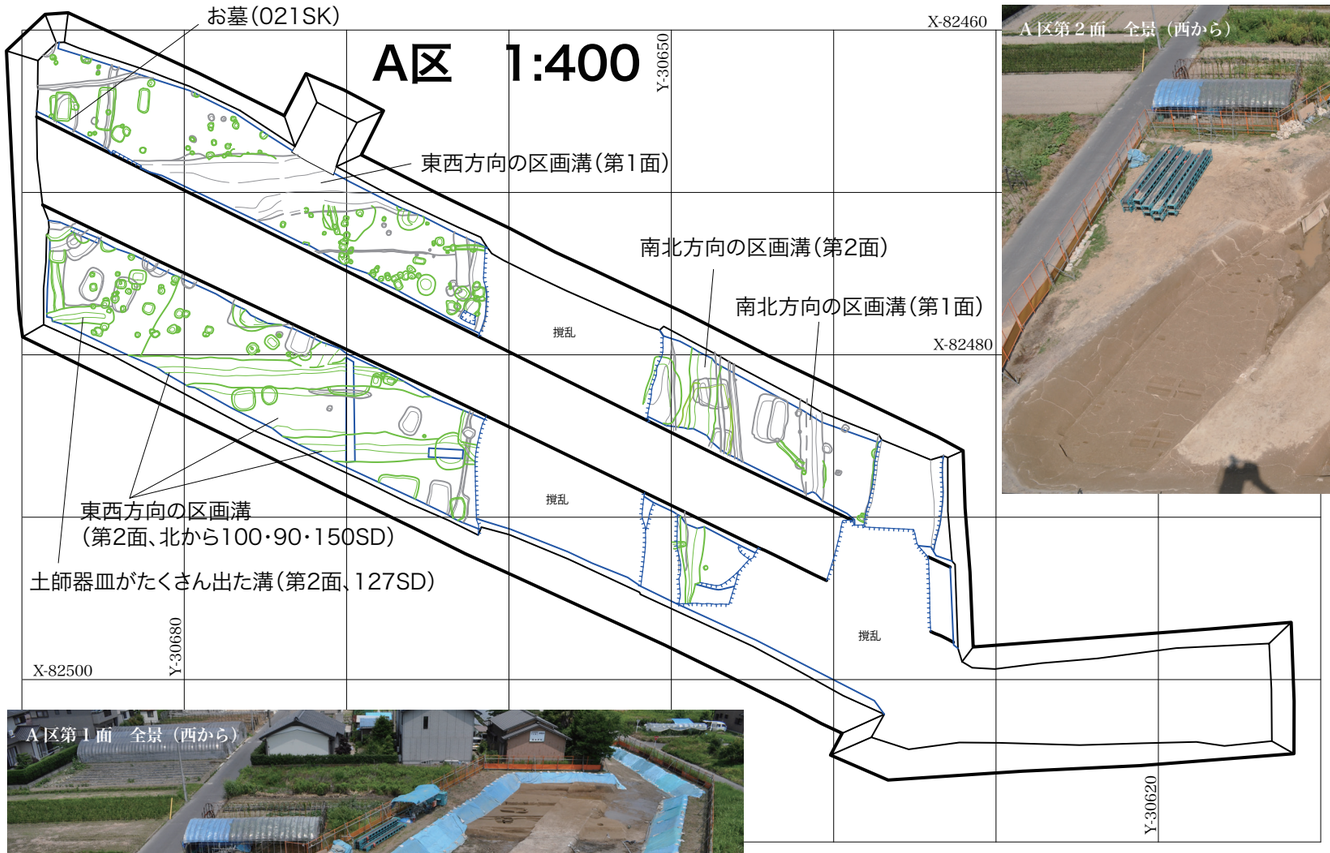
時代	西暦	年号	下津にかかわる歴史的できごと	全国の歴史的できごと
鎌倉時代	1180	治承４		源頼朝、伊豆で挙兵する
	1181	養和元	源行家、墨俣の合戦で平家の軍勢に敗れ、**折戸に陣を構える**	
	1185	文治元		**鎌倉街道の駅制を定める**
	1192	建久３		鎌倉幕府の成立
	1221	承久３	承久の乱に際し、北条時房が下津に本陣を構える	承久の乱
			山田明長（朝廷方の武士）下津河を渡れず、幕府方に捕えられる	
	1239	延応２	曩謨寺（阿弥陀寺の前身）創建される	
	1254	建長６	□平尼仏生年四十九造之、□長六年甲寅六月（下津住吉町出土石硯銘）	
	1262	弘長２	西大寺の僧**叡尊、折戸宿で昼食をとる**	
	1270	文永７	七月十七日、下津の宿に雷が落ちる	
		建治元	（十月）二十日、阿仏尼おりどを通る	
	1314	正和３	下津五日市の地頭代、大成荘乱入について訴えられる	
	1333	元弘３		鎌倉幕府滅亡、建武の新政始まる
南北朝時代	1335	建武２	**足利尊氏、関東へ向かう途中下津で宿泊**	中先代の乱
	1336	建武３		室町幕府成立
	1338	建武５	北畠顕家（南朝方）、下津で北朝の軍勢と戦う	
	1347	正平２	頓乗寺創建される	
	1388	元中５	**足利義満、富士遊覧の途中頓乗寺に宿泊**	
	1392	明徳３		南北朝合一
室町時代	1394	応永元	中島郡稲木庄下津保（現一宮市伝法寺）に正眼寺が成立する	
	1411	応永18	**下津に守護所が存在**（織田常松書状）	
	1432	永享４	**足利義教（室町幕府６代将軍）、富士山遊覧の途中下津に宿泊**	
	1466	文正元	織田敏広（守護代）、下津城を斯波義敏方に襲われる	**応仁の乱（1467~77）**
	1471	文明３	円光寺が炎焼する	
	1476	文明８	斯波義廉（守護）、下津城に下向する	
			織田敏定、下津城を落とす	
	1478	文明10	法華堂（のち妙長寺）が創建される	
			この頃、阿弥陀寺が浄土真宗に転宗する	
	1524	大永４	円光寺が炎焼する	
	1528	享禄２	広幢寺が創建される	
	1531	享禄４	法華堂が妙長寺となる（天正十四(1586)年、清須へ移転）	
	1541	天文10	円通寺が川井村（現岩倉市）から移転する	
	1550	天文19	阿弥陀寺に、本願寺證如から阿弥陀如来画像が下付される	
	1560	永禄３		桶狭間の戦い
	1562	永禄５	織田信長、阿弥陀寺を安堵する	
	1570	元亀７	阿弥陀寺が炎焼する	
安土桃山時代	1573	天正元		室町幕府滅亡する
	1574	天正２	下津を木村弥左衛門が支配する	
	1584	天正12	下津を雑賀松庵が支配する	小牧長久手の戦い
	1600	慶長５	下津宿の住人、起宿へ引き移る	関ヶ原の戦い

鎌倉街道周辺遺跡
地元説明会資料

平成22年9月23日

（公益）愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

（株）アコード


お墓(021SK)
A区　1:400
東西方向の区画溝(第1面)
南北方向の区画溝(第2面)
南北方向の区画溝(第1面)
東西方向の区画溝
(第2面、北から100・90・150SD)
土師器皿がたくさん出た溝(第2面、127SD)
撹乱
撹乱
撹乱
X-82460
X-82480
X-82500
Y-30650
Y-30680
Y-30620

A区第２面　全景（西から）

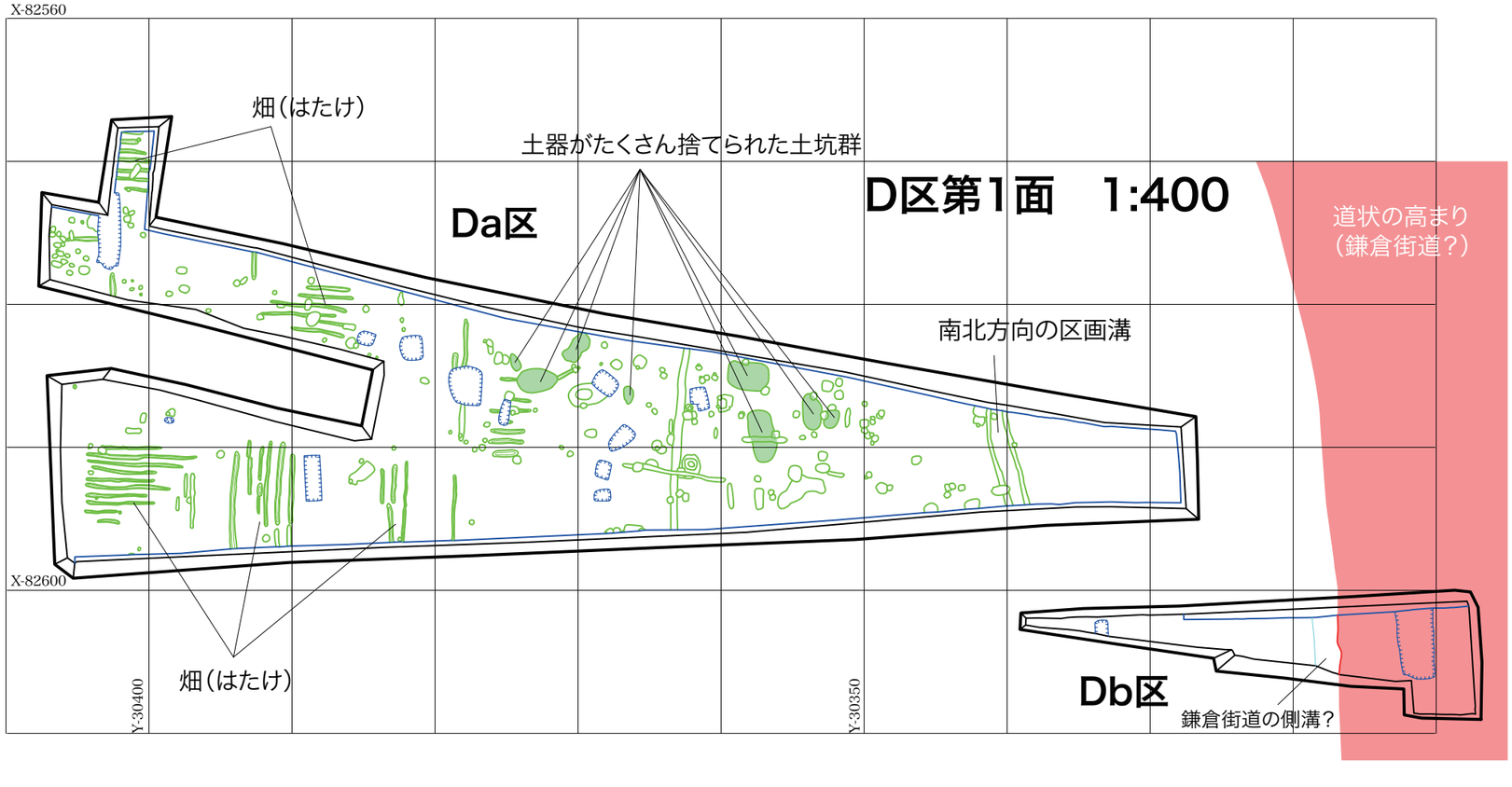
A区第２面　東西大溝群
150・90・100SD（東から）

A区第２面　東西溝 127SD
土師器皿出土状況（北から）

A区第２面　東西溝
127SD（東から）

A区第１面　全景（西から）

A区第１面　お墓
021SK（南から）


X-82560
畑（はたけ）
土器がたくさん捨てられた土坑群
Da区
D区第1面　1:400
道状の高まり
（鎌倉街道？）
南北方向の区画溝
X-82600
畑（はたけ）
Db区
鎌倉街道の側溝？
Y-30400
Y-30350

かまくらかいどうしゅうへんいせき

鎌倉街道周辺遺跡の調査成果

はじめに

鎌倉街道周辺遺跡はIR稲沢駅の東側で、稲沢市と一宮市が境を接する青木川の西に位置しています。北は赤池東山町から南は下津下町東3丁目にかけての、南北約3km、東西約1.5kmにおよぶ広大な遺跡です。その名のとおり、鎌倉時代初期（12世紀末頃）に設定された、京と鎌倉を結ぶ街道（通称：鎌倉街道）に面して広がっています。中心には尾張国の守護所が置かれた下津城（おりづじょう）があり、守護所が清須（きよす）に移った15世紀後半まで、下津宿として、尾張における政治・文化の中心地として栄えたことが、さまざまな文献資料からわかっています。しかし、岐阜街道が設定された江戸時代以降、鎌倉街道は急速にさびれ、さらに近年の区画整理によって、今では全くその面影が失われてしまいました。

これまで稲沢市教育委員会によって、下津城の発掘調査が行われており、複数の堀に囲まれた、巨大な城郭であることがわかっています。しかし、それ以外には発掘調査の手がおよんでおらず鎌倉街道と下津宿の実態は、ほとんどわかっておりませんでした。

今回の調査成果

今回の発掘調査は、愛知県建設部による県道名古屋豊山稲沢線の建設工事にともなうもので、平成22年4月から平成23年3月までの予定で（公益）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが、（株）アコードの支援を受けて行っています。今年度の調査面積は8,000㎡で、西から東にA～E区に分けて調査しています。これまでにA区の調査が終了し、現在はD区を調査中です。

A区

A区では、12～15世紀頃の東西方向と南北方向の区画溝があり、その西側にはお墓が数基みつかっています。お墓のなかには、多数の土器とともに、お金（永楽通宝（えいらくつうほう））が出土しているものもあります（021SK）。また、調査区の南西隅には、土師器（はじき）の小皿が多数出土した溝があります（127SD）。

D区

D区は、市道をはさんで北側をDa区、南側をDb区として、現在調査中です。Da区では、調査区の西側で畑の畝溝がみつかっています。その東には、長軸2m、短軸1mほどの大きな穴（土坑）が5〜6基ほどあり、そのなかからは、中国製の青磁のほか、山茶碗・土師器の小皿などの土器がたくさん出土しています。時代はやはり15世紀頃に属します。

Db区では、調査区の東端が約10mの幅で、西側よりも30〜40cmほど高くなっています。そして、この高まりは灰色の土で丁寧に整地されており、そのすぐ西側には南北方向の溝があります。どうやらこの高まりは、昔の地籍図（表紙）から、鎌倉街道そのものとみてよさそうです。

つまりD区は、鎌倉街道と、その西側に接する下津宿の一角と考えられます。昔の地籍図に残された地名（字名）を丹念に拾うと、下津城より南には、住吉神社・頓乗寺・広幢寺・薬師院・不断光寺・円光寺・円通寺・（北・南）信正寺・妙長寺・（東・西）知光寺というように、たくさんの寺社が鎌倉街道に面して並んでいたようです。

まとめ

このように、鎌倉街道に面して多数の寺社が連なる景観は、萱津宿（愛知県あま市〜名古屋市中川区）を描いた絵図でも認められます。鎌倉・室町時代には、近世東海道のような旅籠（宿屋）はまだなかったため、当時の旅人は、下津宿や萱津宿にみられるような、街道に面したお寺に宿泊していたようです。最後のページにつけた年表をみると、叡尊をはじめとして、代々の足利将軍（尊氏・義満・義教）など、多くの著名人が下津宿で泊まったことがわかります。

これから、鎌倉街道の東側（E区）などについても発掘調査を行っていきます。これまで残念ながら、まだ文字資料はみつかっていませんが、今後の調査で前述のような人々や、お寺などの名を記した墨書土器や木簡などの出土が期待されます。